

## なつ

夏を迎える7月。園長先生に電話をすると、「園庭で面白い水遊びが始まっています。」と弾んだ声。楽しそうだなあ…園庭がどのような夏の光景になっているのかワクワクしつつ出かけた。そして、園庭に足を踏み入れると、春とは違う光景が目に飛び込んできた。先生たちも、私を見かけると「おはようございます」と、立ち止まってこちらに顔を向けて招き入れてくださる。そのお一人お一人のふるまい方に安心感を抱く。



玄関から入ってまずは、ぶどう棚に目にとまった。5月の末からこんなに立派にブドウの実が大きくなっていることに気付く。袋がかけられ大事に育てておられることが伝わる。食べ頃がいつになるのか楽しみな環境。こどもたちは、見上げる実りを気づいているか…そして、その下で陰のある環境で遊べるのは、このブドウ棚のおかげでもある。そこから、園

庭に目を向けると、植栽の鉢が美しく並んでいる。その先に、ブルーシートの上いくつも形・色・大きさの違うビニールプ



ールが並んでいる。影をつくるガーデン用のパラソルも色違いが程よく周りの空間や物的環境と調和して美しいと感じる。玄関先の保育室からテラスへそして園庭へと誘うウッドデッキに囲まれた池。そこに水が流れる様と、コイが泳ぐ様が涼しげに感じる。デッキの端(ブドウ棚)まで来ると、保育室のざわめきが遠くなり、水の流れ落ちる音が聞こえ心地よい。デッキに囲まれた土には、夏野菜とマリーゴールドが植えてあ

る。いろいろな緑と黄色やオレンジの色彩が美しい。マリーゴールドは夏野菜の虫よけになる。こんなところにもガーデニングの心がさり気なく伝わる。保護者の皆さんも気づいておられるかなあ…名前の立札がこどもの絵でいいなあ…こどもと一緒に育てていることが伝わる。

水遊びがいよいよ始まる。一番奥にある 3 歳児保育室から床にビニールテープで線路が貼ってあることに気付く。その線路をうまく生活に取り入れてこどもたちを水遊びへと



誘っている。手前に、プールに入らずに水で遊べる環境がしつらえてある。これが、透明のケースにステンレスの枠組みとシンプルで透けるのが美しい。こどもは自ら選んで遊べる環境がここにある。洋服のまま水遊びの場にいる男の子が目にとまる。先生に聞くと、水着に着替えることに抵抗があり、「服を着たまま

でなら、みんながいる水遊びの場まで出てくるようになったのです。」と、ごく自然に話される。それも OK と受容されている。その子だが、みんながプールからあがった後、誰もいなくなったプールに入って、浸かっているのに気付いた。もうすぐ、水着にも着替えて遊ぶ日が近いようにも感じる。ひとり一人のペースを見守る保育者の姿勢がいいなあと感じる。3 歳児さんが、遊び始めたところに、4 歳児の先生が、保育室前からプール遊びまでの道を朝顔の個人鉢が並ぶ間に青のビニールシートを手際よく敷いていかれる。うまく個人鉢の並びを取り入れていることに感心する。この道を通るときに、朝顔の成長にも気づけるかもしれない。

ガーデンパラソルも偶然か考えられているのかわからないが、赤・青・赤と配置されているのが美しくビニールシートの青にも映える。3 歳児から 4 歳児、5 歳児へと遊びが変わっていくとこどもの動きもダイナミックになる。5 歳児になると先生とこどもとの水の掛け合いなど、対等に遊びが展開されていく。水遊びの環境を園のみんなが使用していくときには、先生たちが時間配分や間の取りあい等を考慮しないとこううまくは回らないと感じる。担任ではない先生の細かな連携があってこそでもあると察する。そして、担任の先生が、こどもとの昼食が始まるころ、担任でない先生たちが、プールの後片付けに精を出しておられる。なかなか大変な水出しである。夏の水遊びの間、毎日続く。みんなの先生が実に気持ちよく動いておられる。感心する。この柔らかさが、こどもたちの生き生きさ、アットホーム感を育んでいるのだろうと感じる。